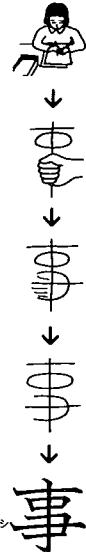


# 事

三年 筆順 一 二 三 事  
画数 8  
オジ・ズ  
ウソ こと

成り立ち



「中」という字を手でにぎった形をあらわした「史」(中と又とて「史」)に「一」をくわえて作った字。

「史」(年 530)は、「ものごとをかたよらずしょりする役人」をあらわした字で、これに「一」をくわえた「事」(ヤクシ)は、「役人のする『しごと』」をあらわしたもののです。「しごと」、または「こと」をあらわした字です。

一つの「こと」に手を集中する「こと」であるとかんがえたらおぼえやすいかもしれませんね。

「事は『吏』と同じく、『一』と『史』との会意字であるが、『吏』が「役所につとめる人」を表しているのに對し、『事』は「役所における仕事」を表したものである。」

# 持

三年  
画数 9  
筆順 一 オン ジ クン もリつ  
成り立ち



「やくしょ」をあらわし、「きまり」のいみをあらわした「寺」と、手の形をあらわした「寺」とを組み合わせた字で、「きまり」を「手」にもつことをあらわした字です。

「あまり」は「まもりつづける」ことがひつような「もつづける」といういみをあらわしました。「長くもちつづける」といういみから、たんに「手に保持」、「維持」、「持論」などの「持」は「長くもちつづける」いみですが、「所持」、「持參」などは、たんに「もつ」といういみです。

△ 「きょうは、する事がいっぱいあるから、てつだつてちようだい」と、おかあさんにいわれました。

△ おとうさんが仕事にでかけると、おかあさんは、どうじや、せんたくをします。そうじやせんたくや、食事をつくるのは、おかあさんの仕事です。

熟語例

△ 仕事 (しなくてはならない事。つとめ)

△ 事実 (実際に起こった事。「春男のいつた事は、ぜんぶ事実だ」などというふうに、つかいます。)

△ 事件 (でき事。「そのひきにげ事件は、ま夜中に起こった」などというふうに、つかいます。)

△ 事故 (わるいでき事。ふこうなでき事。「りょこう中に、自動車事故にあつた」などというふうに、つかいます。)

△ 情事 (悪い事。悪いおこない。「悪事のむくいで、今は、ふこうなく暮らしをしている」などと、つかいます。)

△ 「事情を聞くと、事故がおこったのも、あたりまえだ」などというふうに、つかいます。)

△ 悪事 (悪い事。悪いおこない。「悪事のむくいで、今は、ふこうなく暮らしをしている」などと、つかいます。)

△ 向上 (こうじょう) につとめなければ現状も維持できない、というのが先生の持論です。

類語例

△ どんなことでも持続してしませんと、そのさきめはなかなか出てくるものではありません。だから、なにをするのにも持久力がないじだと思います。

△ 向上 (こうじょう) につとめなければ現状も維持できない、というのが先生の持論です。

△ 維持 (今の状態をそのまま長く「たもち」続けること。持続 (その状態を長く「たもち」続けること。)

△ 持久 (久しく持ちこたえること。長いことがまんし続けること。)

△ 維持 (今の状態をそのまま長く「たもち」続けること。持続 (とほんど同じいみのことばです。)

△ 持論 (ふだんから長いこと持ち続けてきた意見。論 (年 1016) は「すじの通つた意見」のこと。)

△ 堅持 (「堅く持つ」のいみで、意見やたいどを堅くたもち続けてかえないとをいいます。)

△ 護持 (「まもりつづける」のいみで、だいじに護り続けることをいいます。)

△ 支持 (「支え持つ」のいみで、ある意見にさんせいして、そのあとおしをすることをいいます。)